

平成 30 年度 （仮称）岐阜市未来ビジョン民間懇話会 議事録 概要

【日 時】平成 30 年 7 月 18 日（水）10 時 00 分～11 時 30 分

【場 所】岐阜市役所本庁舎低層部 4 階 全員協議会室

【出席委員】福士秀人会長、徳広圭子副会長、石樽利彦委員、乾尚美委員、井上いほり委員、井深正美委員、今井静治委員、岡田芳子委員、葛西美紀委員、河尻満委員、栗本恒雄委員、塩見善彦委員、須賀敦士委員、須田眞委員、土屋雅代委員、西垣信康委員、平尾宜史委員、平光宗基委員、別宮理恵委員、松原和生委員、村井博史委員、森康次委員、屋比久寿子委員、藪下浩委員、藍石委員

1 開会

2 企画部長あいさつ

- ・連日、体温を超えるような暑さが続き、体にこたえるような日々が続いています。また、先般の大雨によって、西日本を中心に多くの方が亡くなられたり、あるいはまだ行方不明の方もおられ、被災地では大変な復興がなされている状況であります。こういう異常気象が常態化するようになってくるのではないかと考えております。亡くなられた方にはお悔みを申し上げます。
- ・さて、本格的な人口減少を迎えるということを毎日のように報道で言われております。少子高齢化の中で岐阜市の将来の姿をどのように描いていくのかということで、岐阜市の未来の都市づくりの総合的な方針として、この未来ビジョンを策定していきます。
- ・今まで幅広い委員の皆様方から様々なご意見をいただきました。とりわけ民間懇話会の皆様には、本日のように全体会、分科会や会議以外からも多くのご意見を頂戴して、今般机上に配布している素案を作成することができました。多大なご協力に感謝申し上げます。今回は、策定に向けた最終段階ということになりますが、皆様の貴重なご意見をいただき、策定していきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

3 今回新たに就任された 2 名の委員紹介

- ◆委員の委嘱状については事前に机上に配布

4 議題（1）（仮称）岐阜市未来ビジョンについて

- ◆事務局より資料①に基づき説明
⇒質疑応答なし

5 議題（2）（仮称）岐阜市未来ビジョン（素案）について

- ◆事務局より資料②、③、④-1、④-2 に基づき説明
- ◆事務局より（仮称）岐阜市未来ビジョンの名称について、「ぎふし未来地図」に変更することを説明

◆意見交換

○会長

- ・それでは、只今のご説明に対して、ご意見、ご質問を伺っていきたいと思います。はじめに何人かの方にご意見を伺って、その後、自由なディスカッションに入りたいと思います。それでは、よろしくお願いします。

○委員

- ・10年から15年先の未来都市像に近づくため、10年後である2028年の数値目標として、目標1が「現在の生活に満足している人の割合」、目標2が「現在幸せだと感じている人の割合」、目標3が「岐阜市民であることに誇りを感じる人の割合」と3つともが主観目標になっています。
- ・主観というのは、人それぞれに違うため、難しいと思いました。例えば、私は1日3食ご飯をいただいているので、時にはそれが当たり前のように感じてしまっていますが、先週の豪雨で被災された方の中には、生活の激変を余儀なくされて1食食べることもすら当たり前だと思えない中で暮らしておられる方がいると思います。そうすると、1食食べる事すら難しい人と3食食べることが当たり前という人が幸せをどのように感じるかはとても難しい問題だと思います。
- ・ただ、「ぎふし未来地図」の中では、人によって捉え方の違う主観を7つの方向性と27の政策を具体化することで支えていくということになっていると解釈しています。強いていうなら、5年後10年後に実現していくためには、資料2の真ん中に政策が①から⑳までありますが、これらは横並びではなく、例えば政策⑨の「柔軟で働きやすい環境の充実」や政策⑩の「活力の源になる産業の活性化」など、どのように働くかというところがしっかりしていないと他のところも実現が難しいと思います。例えば、生活に困っている方が観光に出かけようと思うのかというと、大変恐縮ではありますが、まずはご飯を食べることなど毎日の生活を整えることが大切で、観光地に行き、お金を使うことは難しいと思います。市民活動に参画したり健康に気を使ったり、地域防災に取り組むというのは、実は経済基盤がしっかりしていて余裕がある中でないと、こういう活動に参加するのは難しいのではないかと思います。
- ・毎日のように新聞などで幼い子供の虐待のことが問題になっています。子供は誰一人悪くないですが、保護者の多くは経済的基盤が弱く、人とのつながりが断たれた中で「助けて」と言えない環境の中で子供を育てています。そういったことを見聞きする度、生活基盤がしっかりしていないとゆとりや余裕をなくし、人と人とのつながりが断たれてしまうと場合によっては、命を落とすことにもなりかねないと感じています。このことは子供だけではなく、ご高齢の方や障がいを持っている方などいわゆる弱者といわれる方皆さんが同じだと思います。
- ・最近の子育てについては、母親だけでなく、社会全体で子供を育てることが随分言われるようになってきて、子育て中の父親向けのイベントも随分増えていますが、この度のような災害が発生した場合は、被災地支援へ出かけやすくするなど、今より柔軟な働き方がで

きるとももっとも岐阜市は良くなるのではないかと感じました。

- この「ぎふし未来地図」は、岐阜市の未来の姿として「ひととまち、集い交わる活力と笑顔あふれる成長都市ぎふ」となっています。人とのつながりが大切なので「集い、交わる」という文言が入っているのだと勝手に解釈しています。その上で、この未来地図が策定された際には、市役所の方だけでなく私を含めてここにいる皆様みんなが支えていく、主体となっていくことが大切だと思いました。都市づくりの方向性⑦では、行政が都市づくりを支え、それを推進する行財政運営として、下支えすると説明がありましたが、①から⑥はここにいる私たちが主体者となって関わっていくべきではないかと思いました。
- 私たちはそれぞれの分野での代表として、全体会や分科会に参加してきましたので、ここで得たことや資料を読み込んだり意見を述べてきた経験を糧に、この会議に留まることなく、自分のフィールドで少しでもこれらを推進するために一市民として、市役所に任せるのではなく、主体的に取り組んでいくことが大切ではないかと思っています。その意味ではこのような地図というものを皆様方と一緒に作っていくことに関わることができたことは良かったと思います。

○委員

- 「ぎふし未来地図」について、いろいろと議論させていただきましたが、非常に強く感じたのが行政の方の意気込み。今後、岐阜市を良くしていこうという気持ちが非常に伝わりました。それに対して私たち市民が能動的に関わっていくというのが非常に重要なのではないかと思います。
- 岐阜市が明るい豊かなまちになっていけば、自分の子供、そしてさらにその子供とどんどん続いていくので、私たちだけでなく市民の方にも広く周知することによって何かしら一人一人が行動に移せることがあるのではないかと思います。
- 行政の方だけに任せて進めていくのではなく、市民、企業などいろんな団体の方が協力し合って、この「ぎふし未来地図」の方向性をしっかりと達成していけるよう、10年後の数値目標は非常に高いですが、それが可能な都市であると私は感じています。
- 自分の子供たちに聞いたときに「岐阜市は楽しい、住んでよかった」と言ってもらえるように現役世代でもある私たち自身も積極的にそういった活動に参加しながら進めてまいりたいと思います。
- 岐阜市は生産都市になっていかないといけません。消費地にはなかなかかなりづらいです。観光等に関しても景観等を含めて非常に素晴らしい都市であることは間違いありませんが、そこに住む方がすべてその産業に関われるわけではありません。いろんな業種が存在しているまちでありますし、中小企業が多いまちでもあるので、そういったところをどのように今後伸ばしていくのかを自分自身は考えながらやっていきたいと思っています。

○委員

- ・私からは、3点あります。1つ目は、少子高齢化・人口減少、これはともすると将来的に地域経済の縮小、税収が減るので財政状況の悪化、社会インフラの維持更新が難しくなるなどの重い課題が伴うと考えています。各地域拠点で機能の集約、ネットワーク化を図るなどの効率的な都市構造にするというのは不可避と考えており、市民の理解が得られることを期待しています。
- ・2つ目は、ICT、IoT、あるいは自動運転などの新技術により都市は想定より、もっと早いスピードで進化することも考えられます。行政におかれましては、柔軟性を持って取り組んでいただきたいと思います。
- ・3つ目は、それぞれの自治体がフルセットで機能維持することは、いずれ限界が来ると思っています。各自自治体が目的を共有し合う中で、それぞれの自治体が恩恵を受ける施策を講じていく広域連携の必要性が増すと考えています。多様な都市機能を持つ岐阜市は岐阜都市圏域の中核として中心的な役割を一層担っていくものと考えています。

○委員

- ・小中一貫で毎月1回あいさつ運動をやっており、西日本豪雨災害を受けて、あいさつ運動の際に募金活動をやろうという生徒会の動きがありまして、今朝実際に行いました。生徒会の子たちは初めてでしたが、親御さんたちの協力も得られ、とても多くの方の善意が集まり、驚いていました。こんな風に投げかければ反応があるのだと、若い世代の子たちが自分たちがアクションを起こすことでこんなことやあんなことができる、という体験をできるだけ学校の中ではなくたくさんさせてやりたいと思っています。
- ・10年、15年後という今の中学生たちが社会の第一線で働いています。そういったときに自分は何ができて何がやりたいのか、未来に希望が持てるそんな社会になっていけると良いと思っています。いっぱいやっていっぱい失敗して大人になるまでにどれだけの経験を積めるかということがとても大きな問題だと思っています。
- ・岐阜市は早くから教育立市を掲げており、クーラーも安心・安全を左右する大きなツールです。私が勤務する中学校には、非常勤講師で岐阜市外の学校にも勤務する者がおりますが、そこにはクーラーがありません。当たり前だと思っていることが、行政の施策によってハード面が整備されているということは改めて大きなことだと思っています。ハード面ではいろんな整備が行われているので、中身をどうやってやっていくのか。小中学校を超えて大人になるまでの年代層をどういう風に意識付けするかということを今後、例えばこういう会議において10代、20代の子ばかりの会議を開くなど、そういうのもあっても良いのかなと思っています。

○会長

- ・外気温も今日は39度くらいまで高くなるのではと思いますが、そういった点では、岐阜市は小さなことでも安心して暮らせるなど、子供たちの教育を通して影響を受けることがあると思います。ただ、それがなかなか全体に伝わっていかなかったり、そういった良さ

が当たり前のようになっているので、こういった「ぎふし未来地図」について、今後多くの市民の方にアピールして共有できるともっと良くなると思いました。

○委員

- ・働いて職場の中に入ってしまうと、ボランティアであったり社会に関わりたいといっても普通の産業活動や生活に囚われてしまって、どういう方向で自分が何をやったらいいのかという情報が極めて少ないと日々感じています。いろんなチャンネルを提示するような方向性もどこかに入れていただけるとありがたいです。

○会長

- ・政策⑨「柔軟で働きやすい環境の充実」のところに関係してくると思います。先ほどの委員からもありましたが、今後ICT、IOTが出てくると人間が何をやるのかが非常に大事になってきます。そういったときに固定的な働く時間だとやりにくいところがたくさん出てくると思います。ベースになるところは柔軟で働きやすい環境というところが根幹にあると思いました。

○委員

- ・今回、素案を見て、住みやすく子育てしやすい、年をとっても目標をもって楽しく幸せに暮らしていける、住んでいるところが良いところなんだと感じられますが、岐阜市でしっかりと働ける場があるということがもう少し具体的に見えるような柱にしてほしいと思いました。都市づくりの方向性③のところ、政策や施策になると具体的になると思いますが、他のものと比べると具体性がないです。もっと分かりやすく、岐阜には魅力的な働く場所があり、そして、それを行政も支援をしているというような、働くところがなければ経済にも行政の財政にも関わっていくことなので、ここに具体性について知恵を出してほしいと思います。
- ・もう一つは、今回の災害の派遣の様子を見ていて、ボランティアで行く人たちの生命が危ないなと思いました。個人的なところでボランティアに行かれています、何かあったときどんなことをしたらいいかということを経験するためにも、例えばそういうNPOを行政が支援するというだけでも良いですが、実際にその場で見て体験することは、もし自分のところに何かあったときにすごくそれが力になっていくと思いますので、そういう意味での危機感を持てるような一つ一つのことを学べるような機会を、10年15年先の柱の中に入れてくれると良いなと思いました。

○会長

- ・事務局から只今のご意見について、ご発言いただければと思います。

●事務局

・都市づくりの方向性③について、もう少し具体性がほしいというご指摘をいただいたので、事務局としてご意向を踏まえて考えさせていただきたいと思います。

○会長

・ボランティアはなかなか難しいところもあるかと思います。行政レベルでやってしまうとおそらく行政間の連絡調整ということになってしまうので、そこは市民ベースでやれると良いのではと思いました。NPOやいくつかの団体がうまく動いてくれると良いですが、なかなか難しいと思います。大学生も参加しようと思しますが、こちらとしては安全をどう保つかということで非常に悩んでいます。ただ一方で、参加した学生は変化が見られ、体験としては非常に大事であると思います。

○委員

・今回の素案については、明るい未来を感じる良い内容になったと思います。また、前総合計画「躍動プラン・21」から比べても今の課題を一体的に解決するといった点で具体的な方針も書かれており、良いと思っています。「ぎふし未来地図」を今後5年かけて、実行段階に移していく中で、項目ごとに相反するような結果が出るような心配もしています。例えば、交流人口が増えれば、それが一方で住みやすさにつながるとは限らないです。そういった意味で一方に成果が出ると、一方で成果が出ないというような懸念も感じています。個別の実施計画を今後5年10年と計画を推進していく中で、この「ぎふし未来地図」を俯瞰的に成果が出ているかどうかを逐次管理しながら計画を推進していく必要があるのではないかと思います。

○会長

・まだ完成までいっていないですが、今後の「ぎふし未来地図」の在り方に対するご意見だと思います。事務局からは、いかがでしょうか。

●事務局

・関連計画については、資料編として関連計画一覧を付けさせていただきます。委員がおっしゃられたように、この「ぎふし未来地図」が俯瞰する形になりますが、それぞれ様々な審議会、委員会などで検討された個別の計画と連携して、それぞれの計画の進捗度合も測ってまいりたいと思っています。また、個別のKPIも連携する計画とともに進捗度合を測っていきたいと思っています。

○委員

・先ほどもありましたが、西日本の豪雨の中で、改めて防災に強いまちづくりをどうしていくのが大きな課題になっていると思います。今回、岐阜市の長良川の陸閘については、14年ぶりに閉じられることになり、避難に対する意識について、改めて認識をしたと思

います。倉敷市では、逃げ遅れて亡くなった方が高齢者に多数出ていますが、これは岐阜市も同じようなことが言えると思います、改めて防災についての認識をぜひ入れてほしいと思います。

- ・大阪北部地震について、耐震化の問題が出ていますが、今回盲点となっていたのは、ブロック塀についてです。岐阜市では取り壊しの補助金について新たに作りましたが、こういうブロック塀や工作物の危険についても改めて「ぎふし未来地図」の中に入れてほしいと思います。小学生の子供が命を失ったわけですが、二度とこういうことが起きないように、そういうことをぜひ入れてほしいです。

○会長

- ・只今の防災並びに地震の関係について事務局からいかがでしょうか。

●事務局

- ・個別の形になるので、本編の101ページから103ページのところを見ていただければと思いますが、先の地震、水害というのは、今までも阪神大震災、東日本大震災、また毎年のように豪雨ということもあり、地域防災力の強化、行政の災害対応の強化の中に個別具体的に書かさせていただいております。行政の災害対応の強化というのは耐震化のこと、あるいは本体だけではなく非構造での耐震化なども含めて記載をさせていただいております。今回の委員ご指摘のブロック塀については、本日のことを踏まえ検討させていただきますが、こういった点で記載をしていることをご理解いただければと思います。

○会長

- ・少し抽象的なものの説明のときにトピックスとして付け加えると分かりやすくなるのではと思いました。「ぎふし未来地図」ではうまく取り入れつつ、実際には別の各計画や政策の中で実現するというような作りだと思います。その他いかがでしょうか。

○委員

- ・この「ぎふし未来地図」の素案は理解しやすいです。例えば岐阜市の未来の姿、方向性と市の運営の支え方をそれぞれに分けて並べることで見やすくてはっきり分かります。この2年間の活動で、各分野、各レベルでの協議のおかげで本日の会議に至りました。

○委員

- ・市民の中にこの分厚い内容をどうやって伝えていくかが大事になってくると思います。一例としていうと、各務原市では総合計画を作り直したときに20ページほどのマンガ冊子にして配布されました。マンガがいいのか他の手法がいいのか検討が必要ですが、いずれにしても私たちが住むまちの将来の姿、目標というのは市民に伝えていき、読まない方が悪いんだという上から目線ではなく丁寧に伝えなくてはいけないと思います。そうすることで市民にも動いてもらえる推進力になってもらえると思います。ぜひ分かりやすくて丁

寧な伝え方をしていくという努力をお願いします。

○会長

- ・事務局から意見ををお願いします。

●事務局

- ・私たちが本編をすべて読んでくださいというのは難しいとっておりで、概要版という形で作らせていただきたいと考えています。概要版も通常、難しい言葉を並べることが多いですが、多くの方々に分かってもらえるようにイラストや言葉について見やすい形の概要版を検討しているところです。

○会長

- ・概要版を検討いただけるとのことなので、できれば子供たちの意見も取り入れていただいて、彼らが理解できる、また自分のものにできるというようなものも作っていただけると市民全体のものになっていくと思います。ご検討いただければと思います。

○委員

- ・リタイヤしてから岐阜市のために何か役に立ちたいと、公募させていただき、貴重な経験をさせていただきました。色々なことを考えて事務局の方にも話をしましたが、これで終わるのではなくこれを実現するためにこれからも努力したいと思ひますし、そういうプロジェクトに参画させていただければ積極的に協力させていただきたいと思ひています。

○会長

- ・私を含め、こういった経験をさせていただいたことは非常に重要なことだと思ひますので、今後活かしていきたいですし、岐阜市民としてなんとかしたいという想ひは皆さん共通だと思ひます。

○委員

- ・数値目標の立て方について、現在の生活に満足している人の割合70%以上、2つ目が「80%以上、3つ目が50%以上と「以上」という言葉で表現していますが、この本編の資料を見ていると、満足している人の割合は68%、幸せだと感じる人は79.8%、誇りを感じる人は48%という実数字が出ています。10年後の数値目標で書かれる場合に、2%増えるだけの数値目標でいいのかなと疑問に思ひました。「以上」という言葉の表現の仕方も疑問に思ひました

○会長

- ・本編の32ページにデータが出ています。生活の満足度は25年度から29年度について65.6%から68%になっており、幸福感についても26年度から29年度で78.5%から79.8%、誇りについては51.1%から48%と若干下がっています。これについて事務局から意見はいかがでしょうか。

●事務局

- ・10年後という数値目標を出したとき、わずか2%ということかもしれませんが、データの変動がある中で、これを超えていこうということは1%でもなかなか大きな目標値ではないかと私どもは考えています。毎年市民意識調査を実施する中で、幅のあるこの数値を超えていくということを非常に大きな命題というように私どもは考えており、この主観的な目標としています。個別の施策の中にはそれぞれのいろいろな客観的な数値目標を入れており、この未来都市像を掲げる中で市民の皆様方の想いというのを表していきたいということも含めて掲げさせていただいたものであります。

○会長

- ・1%は意外に大変で、全体の母数もありますが、今後のことを考えると2%といっても厳しいと思います。33ページのおよそ10年後の岐阜市の将来像のアンケートについて、以前は、「水と緑に包まれた自然豊かな都市」が48.8%あり、岐阜市ならではのところがありましたが、28年度の調査では、それがぐっと減って18.5%にまで落ちています。むしろ「福祉・保健・医療サービスが充実した都市」という現実的で生活に密着したものが市民の意識になっていますが、現在の社会情勢やいろいろなものに簡単に左右されてしまうのかと思いました。
- ・23年度と28年度の5年間でこれだけ大きく動くというのを考えますと、10年後の目標として日本のみならず世界全体を考えたときに人類が幸福でいられるのかといったことも含めて取り組んでいく必要があると思います。必ずしも楽観的な数字ではないと思っていますので、これに向けてなんとか全員で進めていければと思っています。

○委員

- ・数値目標について同じようなことを思い、事務局に同じようなことを申し上げましたが、そのときに、今のような説明をいただきました。合計特殊出生率はいつも将来の見通しとして、高位、中位、低位で出ますが、いつも低位の方に推移していきます。少子高齢化ということ考えたときに今以上に本当に厳しい時代がやってきて、年金の受給開始も今の小中学生は70歳を超えるでしょうし、今ほどの年金をもらえないというような中で幸せだとか誇りとかそういう主観のところを1%も上げるためには、個別具体的な数値を上げていく努力しかないだろうなと思っています。この主観数値を上げるというのはほんとに厳しいことでもありますし、そのためには個別具体的なところについて今後、事務局からも各部局に確認をしていくことをおっしゃっていただきましたが、そういうことの積み重

ねで10年後も私たちが笑えるといいなと思っています。

○委員

- ・今回示された「ぎふし未来地図」の中で子供たちが見たときに自分たちに実感が湧くのかなど、今回出されたものがどうしても大人目線の話になっているところがあり、子供たちが見たときにこれは岐阜市のことなんだ、自分たちのまちのことなんだという風を感じられるような表現であったり内容であったりするともっと良いのかなと思います。岐阜市を代表するのは大人だけでなく、幼児、児童、生徒、学生とまた他府県から来られている学生の皆さんも含めて岐阜市を愛していただけるといいなと思います。そういうことを含めて今回の内容が、岐阜市に住んでいただいているすべての層に伝わるといいなと感じました。
- ・ただ、その反面、行政の方がこれだけソフト面やハード面を綿密に取り組んでいただいているのですが、私どもがこのまちで頑張っていくとか、このまちで住んでみようと思うのは市民の意識改革だと思います。人生のコーディネーターは自分たちの手で自分たちの力で頑張ってみようと思っていただくことが岐阜市の課題ではないのかと感じています。
- ・他の市町村、他の自治体もいろんな取り組みをしていて、魅力があるまちがいっぱいありますが、私たちはこの岐阜県岐阜市で生きていくので、自分たちの力もちゃんと出して岐阜市を盛り立てるということも大事だと感じました。こんな経験をさせていただいたことは、いい勉強になりました。
- ・最後に事務局の方に質問ですが、今回の未来地図で「岐阜」という言葉をひらがなにされました。個人的な気持ちでは、「岐阜」という漢字が好きで岐阜の「阜」という字は「岐阜」の地名でしかなかなか出てこない漢字であると思っています。そういったところで誇りに思っているところもあります。今回「岐阜」をひらがなにされた狙いがあると思いますが、漢字ではいけなかったのでしょうか。

○会長

- ・只今のことについて、事務局からお答えいただければと思います。

●事務局

- ・子供たちへのアプローチは大変重要なことだなと思っています。今回、作成できるか分かりませんが、多くの小中学生に配布でき、説明できるような形を少し考えさせていただきたいと思います。「岐阜」をひらがなにしたのは、「未来ビジョン」という言い方よりも「未来地図」というのが分かりやすく、何だろうと思ってもらえる形にしようと思ったときに全部漢字ではなく、少し柔らかくさせていただいたことをご理解いただきたいと思います。

○委員

- ・大変分かりやすく「ぎふし未来地図」にネーミングも変わって打ち出されていきます。皆さんの多様な意見を聞いて啓発されるところがありました。そうした中で、市政運営の理念の3番目の「つながり、安らぎを感じる持続可能な街づくり」の「つながり、安らぎ」をこの24時間の中で感じる場所は、多くの方が共通して地域であります。
- ・行政で出す施策ということになってきますと、「地域」とは、「見守り」だとか「安全」だとか私たちの生活を防衛してもらう観点で出てきますが、「地域」という言葉は非常に深く、捉えにくいです。施策の方向性の中に「地域」という言葉がたくさん出てきますが、それをどう捉えていくか、「地域」という言葉は本当に難しいと思います。
- ・このつながりという部分がどう維持、強化、あるいはもっと広がっていくかにありますので、市政運営の理念の冒頭に「つながり」を持ってきたことは素晴らしいことだと思います。施策の運営段階で、それが常に意識されて具体的な施策が出てくると良いと思います。

○会長

- ・今後各自治会を中心に説明に回ると聞いています。たくさんご意見をいただきましたが、残念ながらそろそろ時間となりましたので、これで意見交換を終わらせていただきます。ここまでの意見で一部検討いただくことも出てきましたが、本会としてこの素案を了承したいと思いますがいかがでしょうか。(拍手)。ほんとに良い意見をいただきまして感謝申し上げます。
それではその他について、事務局から何かあればお願いします。

6 その他

◆事務局より今後の日程（パブリックコメントと地域説明会、策定期間）を説明

○会長

- ・最後に、その他で是非にということがありましたらどうぞ。

○委員

- ・秋に市長と語る会が各コミセンで予定されていますが、地域説明会が同じ時期に重なると地域への呼びかけが難しくなります。また、コミセンとなると限定された人たちだけになってしまうので、事前にこういう話題について地域の声を聴きたいと諮ってもらえれば、地域としての声を集約できますが、意見聴取の形では結果論しか出てこないと思います。また、ここで審議したことは第一線で地域と関わっている職員におろしてほしいです。
- ・新しい遊具を公園に作る際に、どういった遊具がよいかという話が地域にきましたが、実際に使うのは子供たちです。小学校でどの遊具がいいか総選挙を行った際、大人が考えた遊具と子どもたちが考えた遊具は全く違っていました。また、子どもたちが考えた遊具を設置するにあたり、セレモニーを開きたいと市の職員に話したところ、地域や子どもたちの前向きな思いに反した発言もありましたので、折角ここで審議した内容を地域におろす

のと並行して職員にも地域とつながることに支援いただくような対応をお願いしていただくとありがたいです。

○会長

・只今のご意見につきましても検討いただければと思います。

●事務局

・コミセンでの地域説明会は、「ぎふし未来地図」についてということで8月に順次予定しております。

○会長

・これで終了させていただきます。ほんとに良い意見をありがとうございました。それでは事務局へ進行をお返しします。

7 閉会

○事務局

・委員の皆様には、「ぎふし未来地図」の策定に向け、長い間ご尽力たまわりまして、誠にありがとうございました。先ほど事務局から報告させていただきましたとおり、今後はこの素案をもとにできるだけ分かりやすい形で市民の皆様へお示ししまして、また声をお聴きして最終的に取りまとめを行っていきたいと考えておりますので、引き続きご支援をよろしくお願ひします。それでは、これをもちまして本会を閉会させていただきます。本日は誠にありがとうございました。